

体温計

vol. 128
2017 8月号

11 総合相談センターができました

相談支援と地域連携のために

相談支援と地域連携の充実を図るため、今までの「地域医療支援室」が「総合相談センター」として、4月からリニューアルしました。

「総合相談センター」は「地域連携室」「入退院支援室」「総合相談室」の3つの組織からできており、患者さんや家族の方からの医療福祉に関する相談や、入院が決まってから退院後の生活までの相談、さらに診療所や病院、福祉施設等関係機関との連携を総合相談センターとして一体的に取り組むことで、皆様ひとりひとりの地域生活に対する支援をより一層積極的に行ってまいります。皆さま、お気軽にご相談ください。

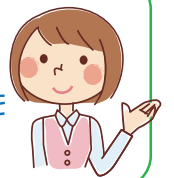
11

総合相談センター

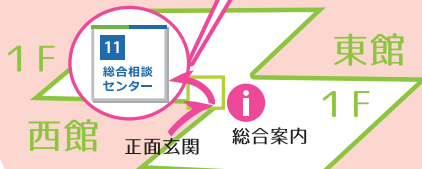
地域連携室
入退院支援室
総合相談室

がん相談支援センター

6ページで、
総合相談センター
「入退院支援室」のご紹介を
しています。



総合相談センター
西館 1F



■ 正面玄関を入り、
左手西館に進み、すぐ



■ 今月のおはなし「産婦人科」〈産婦人科は女性の一生をサポートします〉

- 総合相談センター「入退院支援室」
- 「高額な医療費の支払いが軽減される制度はないかしら?！」
- ちょっとおとくなおくり豆知識「お薬手帳は忘れずに」
- 外来担当医・特殊外来一覧表
- 医師人事異動情報
- 病院からのお知らせ

TOPICS

*
クールビズ
実施中



産婦人科



診療部長 兼 産婦人科主任科長
水野 薫子

産婦人科は 女性の一生をサポートします

女性には女性特有の体の変化に伴い、男性にはない症状や病気があります。たとえば思春期の生理不順、性成熟期の子宮筋腫や不妊症、閉経前後の更年期症状、老年期になると子宮脱、など年齢とともに現れる疾患は変化していきます。また年齢を問わず子宮や卵巣のがんは発生しますので、これら女性の一生にわたりかかわっていく分野が婦人科です。その中で、妊娠・分娩という一大イベントに特化した部門が産科です。



妊婦健診の役割

お産は正常に産まれて当たり前、と思われている方がほとんどだと思いますが、妊娠出産は命がけのイベントです。母児ともに突然生死にかかわる重篤な状態に陥ることもあります。最近はいろいろな疾患を合併したハイリスク妊娠が増え、出産の高齢化も進んでいます。日本の出産の安全性は世界トップレベルですが、そのためには私たち産婦人科医だけでなく、妊婦さん自身がどのようなリスクを持っているのかを知っていただくことも大切です。そしてお母さんと赤ちゃんの異常サインを早く見つけることが妊婦健診の目的です。みなさんへのアドバイスは妊婦健診を通して行われます。現在は公的補助金も出ているので、妊婦健診は必ず初期から定期的に受けるようにしましょう。



妊娠中だけでは終わらない！

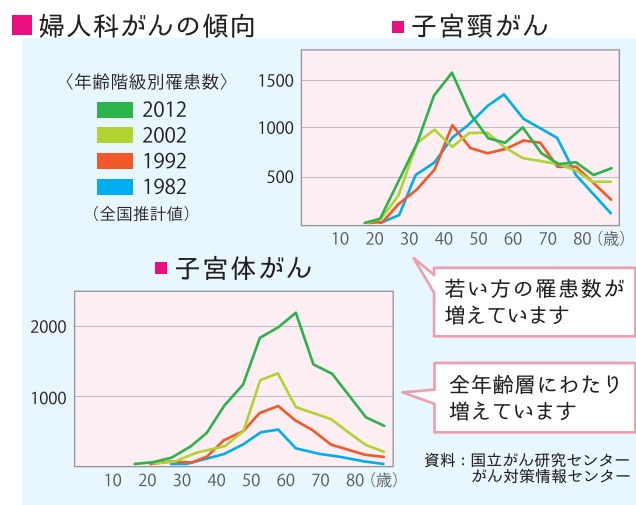
お母さんが糖尿病の場合などで平均体重より大きく生まれた赤ちゃん、またはお母さんの栄養が足りなかったり、何らかの原因で小さく生まれた赤ちゃん。このような赤ちゃんは成人した時に、肥満や糖尿病、高血圧などにかかりやすくなることがわかっています。つまり、妊娠中の栄養管理はその子の将来にも影響します。また、妊娠中に妊娠高血圧症や妊娠糖尿病を発症した妊婦さんは、分娩後に正常域に戻った場合でも、将来的にそれぞれ高血圧、糖尿病を発症するリスクが高いこともわかっています。妊娠をきっかけに、自分の生活習慣を見直していただければと思います。



若年者のがんが増えています

近年の婦人科がんの傾向をみてみましょう。子宮頸がんは、20-30歳代若年者の罹患数が急増しています。一方、子宮体がんは、出産数の減少や食生活の欧米化、肥満・糖尿病などの増加に伴い、50-60歳代をピークとして全年齢層で確実に増えています。卵巣がんや乳がんも同様に増加し続けています。

一昔前の30歳代なかばは、がんと診断されてもすでに出産が終わっている年齢でしたが、現代ではまだこれからという人が増えています。すべての患者さんに適応できるわけではありませんが、妊娠できる機能を残す手術や、抗がん剤治療を行う前の卵子保存など、がんと生殖について以前よりも考えられるようになってきました。



レディース検診しませんか？



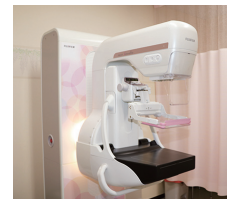
女性を対象とした子宮がん検診・乳がん検診です。なにかいつもと違う症状があっても、定期的に検診を受けておけばあわてずすみずみます。

内診を行う医師は女性医師、乳がん検診でのマンモグラフィー撮影も女性技師が担当しますので、身構えずに受けてください。(乳房の触診は外科医師が行いますので、男性になります。) 検診で前がん病変が見つかることもありますし、特に子宮頸がん検診はその有効性が証明されています。さらに、子宮筋腫や卵巣嚢腫などの病気や、子宮体がんを疑う状態があるかどうかを見つけるためにも、経膈超音波検査を合わせて受けていただくことをお勧めします。もちろん何か異常があれば、当院で引き続き精査・治療させていただきます。

くわしくは、病院総合受付や健診センターにパンフレットがありますので、ご覧ください。



放射線技師スタッフ



マンモグラフィー



ピルも薬です

一般にピルは避妊のための薬と考えがちですが、近年は月経困難症などの治療に用いることも増えてきています。ただしピルも薬ですので副作用がありますし、使うと危険な場合もあります。インターネットで安易に手に入れ、飲むことはお勧めしません。利点とリスクを知ったうえで上手に使っていただくために、まずは私たちに相談してください。



当院の産婦人科医師は全員女性

どの日に受診されても診察するのは女性医師ですので、心配な症状があれば気軽にご相談ください。患者さんと向き合いながら、納得のいく治療をすすめていきます。



Doctors

しず Mama Room



当院産婦人科外来の隣に、「しず Mama Room」があります。母親学級とは別に、ここでは妊婦健診の後に、妊娠生活の心配ごとや食事指導など、個別に助産師がサポートさせていただきます。また妊娠中だけでなく、産後も赤ちゃんやおっぱいなどの相談にのっています。ぜひご利用ください。

当院ホームページでは「助産師だより」を載せています。他の妊婦さんの経験談など、随時更新していますので、一度ホームページをのぞいてみてください。

しず Mama Room

産婦人科助産師

助産師だより

産婦人科は 女性の一生を サポートします

入退院支援室

11
総合相談センター
地域連携室 / 入退院支援室 / 総合相談室
がん相談支援センター

地域医療支援室から名称を変更した「総合相談センター」。地域連携室、総合相談室、入退院支援室が設置され、看護師、社会福祉士、事務職員が連携して業務を行っています。今回は「入退院支援室」の業務と、「限度額適用認定証」についてご紹介します。

総合相談センター

地域連携室

- 地域医療支援
- 病診連携

地域医療の窓口として、診療所や病院、福祉施設等関係機関との顔の見える連携を積極的に行います

総合相談室

- 医療福祉相談
- 訪問看護
- 在宅医療支援

患者さんやご家族からの医療福祉に関する様々なご相談をお受けします

わたしたちが
ご相談を
お受けします

入退院支援室

- 入院受付(案内)
- 入院前支援
- 退院調整

入院が決まってから退院後の生活まで、患者さんやご家族の不安を解消しアドバイスいたします



看護師と
社会福祉士

右ページで
ご紹介して
います

受付



入院時

入院の予定が入った時点で、各診療科から診療科ごとに必要な説明がされます。それに加えて、入退院支援室で入院案内をもとに、入院時提出書類、入院中の生活、限度額適用認定証、差額ベッド代などについての説明を行います。また、入院当日の入院受付、入院病棟のご案内を行います。6月から、入院の説明時に、薬剤師によるおくすり確認を始めました。

退院時

急性期病院である当院は、緊急を要する病状の方や重症者を積極的に受け入れるように努めています。当院の在院日数は平均 12.1 日で、入院治療や検査が終了し病状が安定した方は退院となります。

そのため入院後早期から、退院後の療養について準備する必要があります。病棟担当の相談員がご本人、ご家族と相談しながら、主治医、病棟看護師などと連携してお手伝いします。自宅での療養が継続できるよう、状況により介護保険サービスや訪問看護、かかりつけ診療所との調整を行います。また、自宅での療養が困難な場合は、病状に合わせて療養型病院、リハビリテーション病院、介護施設などの紹介と転院までの調整を行います。



相談室

入院前から退院後にかけての様々な不安を少しでも軽減できるようお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

知っておきたい!!

医療費の支払いが高額になりそう！ 支払いが軽減される制度はないかしら？！

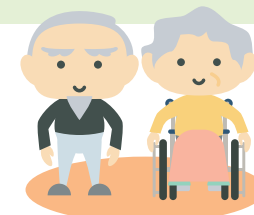
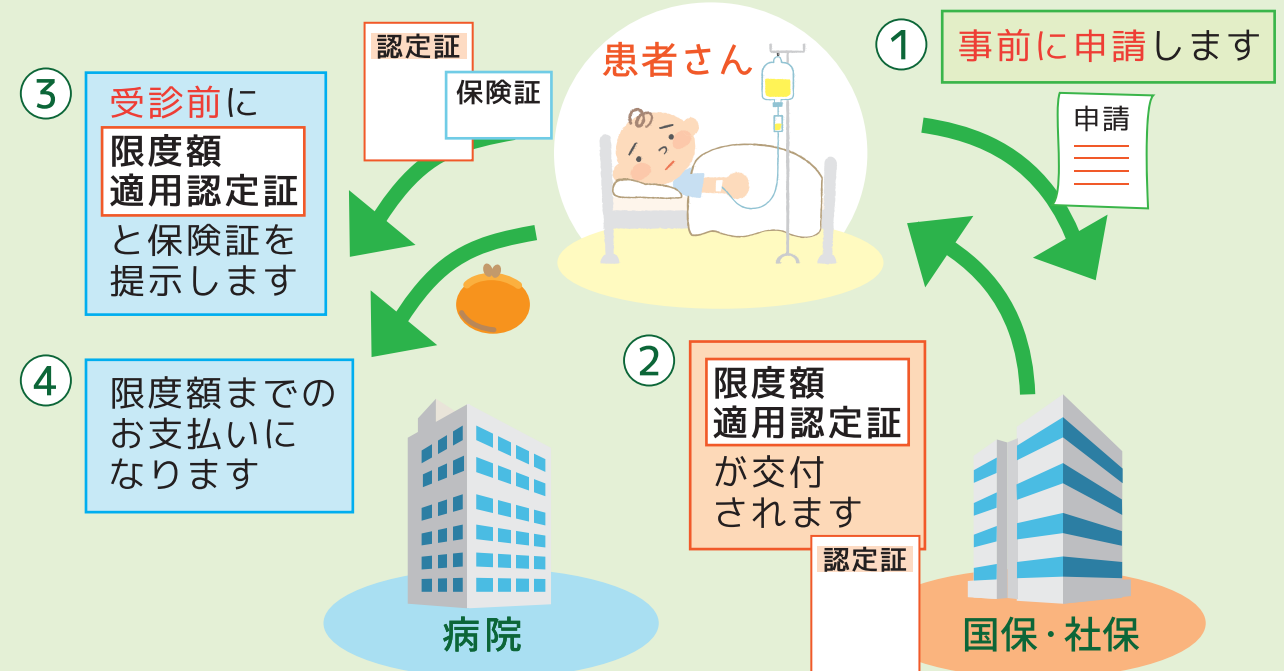


70歳未満の方に

「限度額適用認定証」のご利用を おすすめします

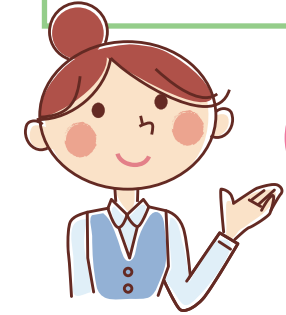
「限度額適用認定証」を事前に申請しておくことで自己負担を軽減できます。交付された「限度額適用認定証」と保険証を受診前にご提示いただくと、1か月(1日から月末まで)のお支払いが自己負担限度額までとなります。

「限度額適用認定証」の手続きをすると



所得によって、
限度額が変わります

これで安心！
安心して治療を受けるために、
事前に「限度額適用認定証」を
入手したいわ！



手続きの方法や、くわしい内容は、
西館 1F 11 総合相談センターまで
お問い合わせください。

総合相談センター
054-253-3125



「お薬手帳は 忘れずに」

ちょっとおとくな

おくすり

豆知識

皆さんは医療機関に受診する時、必ず**お薬手帳**を携帯していますか？
「持ってこいと言われれば持ってくるけど・・・」や「いつも持っているわけではない」という患者さんの声を、実際耳にすることがあります。

お薬手帳は、医療機関に受診する時、必ず携帯してください。

「今、何を飲んでいるのか？」や「新しくお薬を処方したいが、今飲んでいるお薬との相性はどうか？」、「今までにどんな副作用歴があるのか？」等、様々な情報が**お薬手帳**から得られます。また、処方された薬を使用してご自身が気になったことを書きとめていただければ、さらに診療に役立てることができます。**お薬手帳は忘れずに、ぜひともお持ちください。**

(最近では「eお薬手帳」という、スマートフォンで利用できる電子お薬手帳もあります)

また、「**かかりつけ薬局**」を決めておくと、お薬の情報を一元管理できて、安心・安全です。

受診したそれぞれの医療機関の近くの薬局でお薬をもらうのではなく、お薬をもらう薬局は一か所に決め、「**かかりつけ薬局**」としましょう。薬局によっては「**かかりつけ薬剤師**」を推進しているところもあります。ご興味のある方は、**かかりつけ薬局**にお問い合わせください。



忘れずに

- 外来診療時の受付時間 **8:30～11:30** (一部、受付曜日や時間が異なる診療科があります)
- 担当医は、都合により変更することがあります(土・日曜日・祭日は休診です)

急病時の連絡先

- 救急外来 **054-253-3125**
 - 心臓救急 **054-252-4399**
- 24時間** 受け付けています

人間ドック

予約制、当日結果説明、昼食付

脳ドック

予約制(予約受付 月～金 10:30～16:00)
毎週火曜日実施、当日結果説明

健康診断

予約制(予約受付 月～金 10:30～16:00)

レディース検診

予約制(予約受付 月～金 10:30～16:00)

予約と受付は、**市民健診センターへどうぞ**

TEL: 054-253-3125

(内線 5350)

FAX: 054-253-3237

クールビズ
実施中

